

令和4年10月11日

発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会（令和4年度 第1回）

資料3

# 建設生産・管理システム部会における 審議予定事項

---

- 多様な評価方法(試行)の整理・検証にあたり、ある程度の実績がある下記8類型の試行を分析対象とした。
- 主に、①試行の目的を果たしているか、②品質が確保されているかの観点で実施結果を分析。
- 分析にあたっては、参加者数やその属性、成績評定等のデータによる定量分析に加え、実施した発注者・受注者の現場の声をとりまとめたアンケート分析を実施。

地域における社会資本を支える 企業を確保する方式	元請企業を評価	①チャレンジ型	受注企業の固定化防止や新規参入の促進を目的として、総合評価落札方式において <u>企業・技術者評価の影響を緩和</u> し、実績のない(少ない)優良な企業による入札参入を促す方式。
		②自治体実績評価型	地域建設業の担い手を確保するため、総合評価落札方式において <u>企業・技術者評価の評価対象を都道府県・政令市等に拡大</u> する方式。
		③地域防災担い手確保型	地域防災の担い手である <u>地域施工業者の参入機会促進</u> 等を目的として、総合評価落札方式において <u>防災に関わる取り組み体制</u> や <u>活動実績</u> 、災害に使用できる <u>建設機械の保有状況</u> 等の評価を拡大する方式。
		④企業能力評価型	<u>不調不落の防止</u> 、 <u>発注事務負担軽減</u> 等を目的として、受発注者双方の事務負担が大きくなる <u>技術者の能力等に係る評価を省略</u> し企業の能力等のみで評価する方式。
	下請企業を評価	⑤地元企業活用審査型	地域に精通し <u>地域経済への貢献度の高い地元企業の育成</u> を目的として、総合評価落札方式において工事における <u>地元下請企業や地元資材会社の活用状況</u> を評価する方式。
		⑥特定専門工事審査型	<u>難易度が高い専門工事等の円滑かつ確実な施工</u> を目的として、総合評価落札方式において <u>工事实績のある専門工事業の下請け活用</u> を評価する方式。
		⑦登録基幹技能者評価型	<u>工事全体の品質確保</u> 及び <u>長期的な担い手の確保</u> を確保を目的として、総合評価落札方式の技術者の能力等において、 <u>下請業者における登録基幹技能者、建設マスター、技能士</u> の配置を加点評価する方式。
		⑧若手・女性技術者等活用型	将来の担い手である技術者の拡大等のため、加点や資格要件化等により <u>若手技術者や女性技術者が参画を促進</u> する方式。
技術者や技能者 など新たな担い 手の登用を促す 方式			

# 試行結果のまとめ

- 各試行の結果を分析したところ、**概ね目的に沿う結果**が得られ、工事品質も確保されるなど、**有効性を確認**。
- 試行件数が少ない等、フォローアップが必要と考えられる評価方法については、引き続き試行を行いながらの検証が必要。

地域における社会資本を支える  
企業を確保する方式

技術者や技能者  
など新たな担い  
手の登用を促す  
方式

元請企業を評価

下請企業を評価

①チャレンジ型	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事品質は維持しつつ、目的としている新規参入者の継続受注に効果が見られる。</li> <li>また、受注機会確保・技術者育成の観点から受発注者とも前向き。</li> </ul>
②自治体実績評価型	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事品質は維持しつつ、目的としている新規参入者の継続受注に効果が見られる。</li> <li>また、参加意欲の拡大・技術者育成等の観点から受発注者とも前向き。</li> </ul>
③地域防災担い手確保型	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事品質は維持しつつ、防災に関わる取組や実績がある企業の参入機会向上に寄与しており、試行の目的に沿った結果。</li> <li>受注者からは技術者育成等の観点から前向きな意見あり。</li> </ul>
④企業能力評価型	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事品質は維持しつつ、不調不落発生率の低下、手続機関短縮による発注事務負担軽減が見られており、試行の目的に沿った結果。</li> <li>受発注者とも、負担軽減、柔軟な入札参加が可能となることについて前向き。</li> </ul>
⑤地元企業活用審査型	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業の活用を図る企業が優位に落札しており、試行の目的に沿った結果。また、試行工事において施工品質が向上する傾向が見られた。</li> <li>受発注者とも地元企業育成や地域経済活性化の観点から前向き。</li> </ul>
⑥特定専門工事審査型	<ul style="list-style-type: none"> <li>試行工事においては、専門工事業者の活用を図る企業が優位に落札しており、また高い工事品質となっていることが示唆されたが、実施件数が少なく有効性等を判断するには試行数が不足。</li> </ul>
⑦登録基幹技能者評価型	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録基幹技能者等の活用を図る企業が優位に落札しており、試行の目的に沿った結果。</li> <li>工事品質向上に関する現場の意見が多いが、成績評定の観点では試行工事以外と同等程度。</li> <li>地方においては資格保有者が少ない旨の指摘もあるが、受発注者とも前向き。</li> </ul>
⑧若手・女性技術者等活用型	<ul style="list-style-type: none"> <li>直轄工事に配置された若手／女性技術者が翌年度も配置されており、知識・技術の習得の場として活用されつつあることが確認された。</li> <li>本支店社や熟練者の助言・サポート等により若手・女性の定着・育成に努めている。</li> </ul>

- 令和4年3月の「公共工事の入札契約方式の適用に関するガイドライン」改正により、総合評価落札方式は、多様な入札契約方式の一つと位置付け
  
- 昨今の総合評価落札方式のレビューを踏まえ、ガイドラインについて所要の見直しを行いたい。
  
- 建設産業の働き方改革等や、時代の要請への対応
  - ⇒ 改正点(案)①
    - 手続の簡素化、海外技術者評価、賃上げの取り組み評価 等の新たな取り組み内容の追加
  
- 担い手確保等を目的とした多様な試行の効果や課題への対応
  - ⇒ 改正点(案)②
    - 試行に対するPDCAサイクルの考え方導入

# 総合評価ガイドライン改正の流れ

## ○総合評価ガイドライン（本省ガイドライン）へ反映・展開

### 【令和4年度】

- ・総合評価の各種試行に対して、PDCAサイクルによる分析・評価の考え方を記載

### 【令和5年度以降】

- ・PDCAサイクルに基づき、「試行」→「本運用」、「試行継続」、「統合」、「廃止」等を検証

## ○地整等の取組

- ・本省ガイドラインの考え方にに基づき、各種試行の評価、運用改善を実施

